



SORAK Development Agency

Registered NGO: No: 4343: INDR92033978NB

P.O Box, 71883 Clock Tower –Kampala; Tel: +256 703515225

Lusalira Trading centre-16km from Mubende, Kampala-Fort portal Road



太陽熱により発酵させているドーナツ

マイクロクレジット事業

マイクロクレジット(貧困層向けの無担保・小額の融資)
を通じた女性や若者の経済的自立支援

四半期報告

(2021年4月~6月)

はじめに

本事業の第2四半期の活動報告である。最初に、事業を確実に継続し、持続可能にするために、新たな学びや経験を積むと同時に、随時変更や調整していくことが重要である。

この報告期間、ドーナツやパンの生産は、ルーティーン活動に限られたが、さらなる商品開発や市場拡大に乗り出している。

活動概要

1. **中古車の修理とブランディング:**本期間中、SORAK 所有の小型車は不調があったが、商品販売に向けて修理をした。商品の運搬のために後部座席を取り除き、パンのステッカーを作成し車に貼り付けた。第一の狙いとして競合他社と差をつけること、第二に購入者の目を引くことで、我々の商品の販路開拓をすることである。



ブランド化した販売車

2. **市場拡大:** 本期間中に、前期中に開拓した我々の拠点地域および隣接した2準群よりさらに広範囲に市場を広げた。それは Kyegeggwa 郡にある Hapuyo 準群の KyakaII、Kasule 難民キャンプと、Gomba 郡にある Maddu 準群である。
3. **ディーゼルエンジンの設置:** 前期では Umeme という一番大きな電力会社が供給する電気を使用していたが、電気の配給が安定せず、しかも高額であった。そこでディーゼルエンジンの発電機を購入したところ、継続して作動するため、自分たちの使用したいタイミングで働けるようになった。



新たに購入したディーゼルエンジンでミキサーを作動



SORAK パンのサンプルステッカー

4. **商品開発:** 6月の最終週に新商品を開発した。消費者の要望に基づいて、クッキーと小さなサイズの地元で“ダディ”と呼ばれるドーナツである
5. **若者のトレーニング:** さらに男性 5 名と女性 3 名の若者を受け入れ、パン作りのトレーニングを行った。その間、計 3 名（男性 2 名と女性 1 名）の参加者が自身でパンのビジネスを始めるために去った。

主な成果

今期の事業において貢献できたこと。

1. 販売対象の地域やコミュニティにおける食料安全保障に貢献できた。我々の商品を食料品として利用する機会を購入者に提供した。
2. 若者に技術提供をした。彼等はパン作りやそれに関連する作業を学んだことにより、この経験を活かして自身でビジネスを始めるチャンスを得ることができた。
3. 若者に雇用の機会を提供した。現時点では販売関連スタッフとしてバイク販売員 2 名、軽トラックでの販売 2 名の計 4 名を雇用した。

課題

今期の事業における課題

1. **コロナウイルスの感染再拡大と 2 回目のロックダウン:** ウガンダでは 2021 年 6 月 10 日から 52 日間、2 回目のロックダウンにより経済活動が減少し、その影響により販売が低迷、生産に非常に大きなダメージを与えた。しかし、生産を継続するために、我々は様々な可能性を考慮しながら活動を継続した。また売上の減少を補うために多くの人々が居住している Kyakall という難民キャンプにまで市場を広げた。1 日平均 200 キログラムの小麦粉を使用した商品の販売により、約 333 ドル/日の総売上高があるため、財

政状況は安定している。ロックダウンが終われば 2 倍の売上を期待しているが、そのためにミキサーなどのさらなる機械の導入も必要となってくる。

2. **ドーナツ生産拡大に適さない天候:** ドーナツの生産には 35 度以上の一定の温度を保たなければならない。現時点では太陽光に頼っているため、上手く発酵できず小さなサイズの商品しか生産できず購入者ががっかりさせてしまうことがある。
3. **若者による怠慢と浪費:** 若者の中には怠慢で、工場の仕事として要求されることに応えられていない者がいる。材料を計量することに注意を払わず、商品にならないひどい物を生産することがあり、そういう時は油や砂糖など高額な材料が無駄になってしまう。
4. **参加者による生産品の窃盗:** 管理者の不在時に生産品を盗む参加者がおり、このような行為はビジネスを台無しにすると危惧している。

課題に対する取り組み

様々な課題を軽減するために、SORAK は以下の事を実施した。

1. 保健省が発行している Standard Operating Procedures (標準作業手順書) に基づき、参加者やスタッフがコロナウイルスに感染しないように器具の消毒や手洗いを徹底した。
2. ロックダウン中は、多くの普通車は交通を制限されるが、貨物車として車をブランディングしたことにより、人々に必要な食料を配給する車として認められ自由に移動ができた。
3. まき釜オープンから発生する熱を利用し、何とか生産をしたが、適切な数を生産するまでには至らなかった。この課題への取り組みとして、寒い天候に備えて室内暖房機を購入する予定である。また、寒い気候下では、熱がなくても生産できるクッキーやパンの生産をし、暖かい気候下ではドーナツを作ることに取り組むことである。
4. 温暖気候時はより多く労働してもらい、寒い時期の労働は減らすようにスタッフに掛け合う。
5. 天候に左右されない商品を生産する。
6. 怠慢な参加者は有能な若者と交代させる。また各スタッフの日常業務が計画通りに実施しているか確認するようにする。
7. 生産品を盗んだ参加者は辞めさせるなどの処分をする。もし資金があれば、工場フェンスを作り出入口を 1 つにし、出入りする者を監視するガードマンを雇用する。

今後の提案

1. 自動で焼いたり、熱したりできる性能の良い機械を導入すること。
2. 時間通りに商品を市場に配給できるような交通手段を得ること。

3. ドーナツを素早く発酵させるように暖房室を建てること。
4. 市場の維持と拡大をすること。



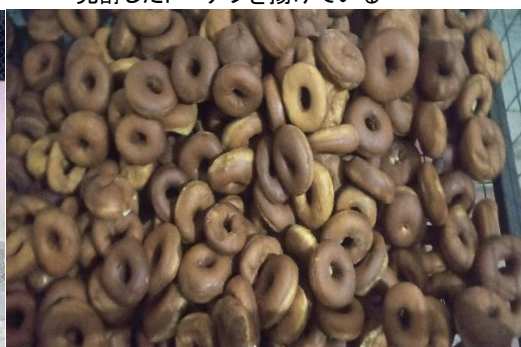
太陽熱を利用しドーナツを発酵させている



発酵したドーナツを揚げている



女性のパン作りの参加者



2021年6月に導入した新商品



切ったり丸めたりしている様子

次のステップ：

次のプランは、本事業を継続していく中で学んだ経験や教訓に基づき決定する。2021年6月に開始すると見込んでいたマイクロクレジット活動は、予定外のロックダウンによる活動の遅れなどがあり、ビジネスが軌道に乗るまでは実施する段階ではないと考えている。

マイクロクレジットの開始はすべての活動が運営でき、商品が安定した生産ができるようになってから実施すべきと考えており、今年2021年の年末までに達成できるのではないかと考えている。